

社会学	社会学
-----	-----

[講義] 第1学年 前期 選択 2単位

《担当者名》加藤 倫子（非） lc-m-kato@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

社会学的な観点から、現代社会におけるさまざまな事象（人と人／モノ／出来事の相互作用）が私たちの生活とどのように関係しているのかを学ぶ。とりわけ、現代社会の中で生じる不平等や不公正に目を向け、そうした状況を背景とする諸問題についての理解を深める。

【学修目標】

- ・社会学の基本的概念について理解し、現代社会の諸問題について説明することができる。
- ・人と社会の関係について理解し、社会学の視点から生活の多様性について説明することができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	イントロダクション・「社会学」の視点	「社会学的な視点」とは何かを理解するとともに、自身が関心のある社会問題を「社会学的な視点」から考察する。	加藤
2	社会学の歴史と対象（１）	「社会学」という学問が成立した時代背景について理解する。社会学の方法論を確立したとされるウェーバー・デュルケム・ジンメルの名をとりあげ、かれらの社会学の特徴について把握する。	加藤
3	社会学の歴史と対象（２）	前週に引き続き、ウェーバー・デュルケム・ジンメルの名の社会学の特徴から、それぞれが個人と社会の関係性をどのようにとらえていたのかを理解する。	加藤
4	社会システム論（１）	社会の日常的な営みがどのような仕組みで動いているのかを理解する。	加藤
5	社会システム論（２）	「社会がシステムである」とはどのようなことを指すのかを理解する。	加藤
6	組織と集団	集団と組織との違いを理解し、組織がどのように形成され、どのような問題を生み出すのかを理解する。	加藤
7	地域社会とコミュニティ	地域社会がどのような特徴・機能を持っているのかを把握し、日本における近年の地域社会の変容とコミュニティ政策について理解する。	加藤
8	社会変動と人口変動	産業化、都市化、大衆消費社会、少子高齢化、人口減少といったキーワードを通じて、現代社会の大きな趨勢を捉え、そこにどのような課題があるかを理解する。	加藤
9	グローバリゼーションと人の移動	グローバリゼーションとはどのような現象かを理解し、それによって社会にどのようなインパクトがあるかを考察する。	加藤
10	労働	労働をめぐる国際的な取り組みと、日本の特徴を把握し、現代社会における労働課題について考える。	加藤
11	差別と偏見	偏見や差別のメカニズムについて学び、差別現象が生じるメカニズムについて理解する。	加藤
12	家族とジェンダー	「家族」の歴史の変遷をたどり、「家族」がどのような集団なのかを考える。個人と家族とのかかわり、家族が担っている／担ってきた機能がどのようなものであるかを理解する。	加藤
13	さまざまな社会的格差	所得、雇用、教育、健康など、さまざまな社会的格差があることを学び、日本における格差拡大の経緯を学ぶ。社会的な不平等や格差が再生産される論理を理解する。	加藤
14	自己と他者の社会学	現代社会における「自己」のありようについて理解する。「自己」は他者とのかかわり、自分自身とのかかわり	加藤

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		わりという2つの関係性の中で形成されることを理解する。	
15	総括	これまでの学習事項を確認し、整理する。そして、残された課題を展望する。	加藤

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験100%とする。

【教科書】

特に使用しない。必要な資料は配布する。

【参考書】

一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟（編集）『社会学と社会システム（最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座）』中央法規

【備考】

この科目は、社会福祉士・精神保健福祉士国家試験受験資格取得のための「社会学と社会システム」に該当する。また、介護福祉士国家試験受験資格取得のための「社会の理解」に該当する。

授業資料の配付はGoogle Classroomを利用するので、適宜確認すること。

【学修の準備】

授業資料はGoogle Classroomを用いて配布するので、事前に目を通しておくこと（予習2時間）。各回終了後には、講義内容を復習し、授業内容に関連して生じている社会問題について整理すること（復習2時間）。

定期試験の出題範囲には、配布資料に記載されている内容のほか、授業中に口頭で説明した内容も含まれるので、重要だと思われる箇所は各自必ずメモを取ること。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP3：社会環境の変化や保健・医療・福祉の新たなニーズに対応できるよう自己研鑽し、自らの専門領域において自律的・創造的に実践する能力を身につけている。

DP4：保健・医療・福祉をはじめ、人間に関する様々な領域の人々と連携・協働できる能力を身につけている。